

Komatsuzaki

子どもたちの夢やあこがれを
描き続けた画家

ぼくらの 小松崎茂展

2005年9月17日(土) - 10月30日(日)

刈谷市美術館 [特別、第1-3展示室]

開館時間 = 午前9時 - 午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日 = 9月20日[火]、26日[月]、27日[火]・10月3日[月]、11日[火]、17日[月]、24日[月]

入場料 = 一般800円(600円)、高大生600円(400円)、中学生以下は入場無料。()内は前売及び20名以上の団体料金。

主催 = 刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、朝日新聞社 後援 = 愛知県教育委員会

特別協力 = 昭和ロマン館、小松崎茂美術館、松本徽章工業株式会社

協力 = 東宝株式会社、株式会社東北新社、有限会社ヒルマモデルクラブ

同時開催：「瀬川康男の近作絵本原画展」(1階ロビー部/入場無料)



2



3



4

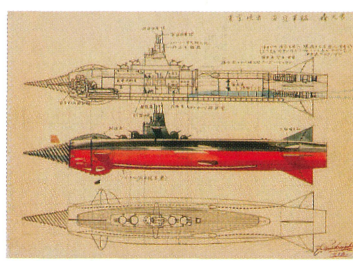
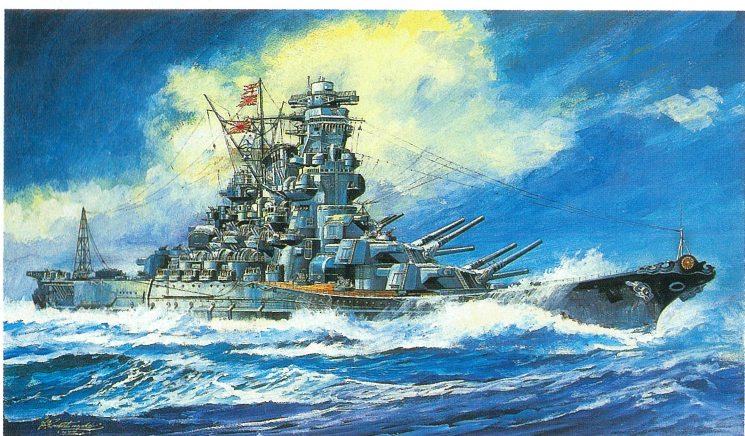
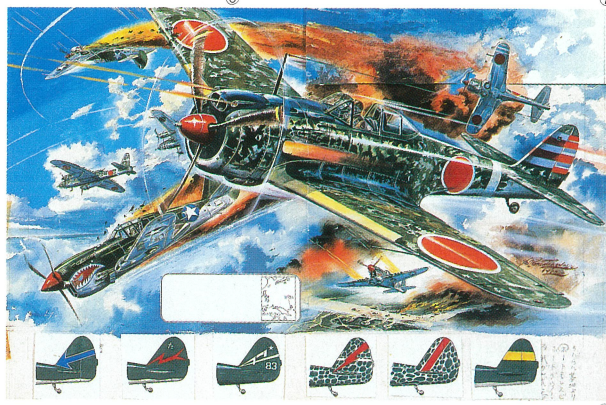
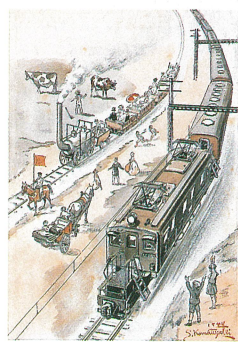


5

世を超えて少年少女たちの夢を育て、魅了しつづけた画家・小松崎茂(大正4ー平成13年)。彼の類ない豊かな想像力は、少年ヒーローが活躍する絵物語をはじめ、臨場感みなぎる戦記物やSFなど多彩な分野で発揮されました。

幼い頃から描くことを好んだ小松崎は、当初日本画家に師事しますが、やがて挿絵画家に転向。昭和13年から新聞連載の挿絵を手がけるようになり、迫真の戦闘場面を描いた科学雑誌『機械化』で画才を開花させました。戦後は『冒険活劇文庫』や『おもしろブック』などの少年雑誌に「地球SOS」や「大平原児」などの代表作を次々に発表し、山川惣治と並ぶ絵物語作家として一世を風靡しました。絵物語の時代が去る頃には『週刊少年サンデー』や『週刊少年マガジン』などの表紙や口絵で活躍する一方、戦車や戦闘機、「サンダーバード」などのプラモデルの箱絵を数多く描き、テレビ全盛期の昭和40年代には、「ウルトラマン」や「マジンガーZ」などのキャラクターのイラストレーションを手がけました。そして迎えた平成の時代には、音楽CDのジャケットなどの新たな仕事に取り組みました。

本展では、初公開の初期日本画やスケッチをはじめ、絵物語や口絵の原画、プラモデルのボックス、メカデザインを提案した特撮映画関連資料など300余点一堂に展示します。作品を発表する時代やメディアは移り変わりながらも、一貫して子どもたちに未来への夢を贈り続け、現在の芸術文化にも影響を与えた小松崎茂。今、その全貌に迫ります。



①カタマラン豪華客船(『メカニック・ファンタジー』集英社)原画 1982年 ②偉大なる王(『少女少女世界の文学第22巻』小学館)原画部分 ③世界大終末 地球大脱出(『週刊少年マガジン』講談社)原画 1968年 ④Mix-Up Vol.3 ケン・イシイ(音楽CD sony music entertainment)原画部分 1996年 ⑤超特大サンダーバード2号(プラモデルボックス 今井科学)原画 1974年 ⑥のりものはくぶつかん(『幼年クラブ』講談社)原画 1948年 ⑦黒い太陽(『幼年クラブ』講談社)原画 1954年 ⑧単の奮戦(『週刊少年サンデー』小学館)原画 1963年 ⑨参考資料(プラモデルボックス 田宮模型) ⑩戦艦 大和(企業カレンダー)原画 1977年 ⑪宇宙コロニーII(『メカニック・ファンタジー』集英社)原画 1980年 ⑫参考資料「轟天号デザイン案II」(特撮映画・海底軍艦 東宝)1963年

会期中の催しもの

1. 講演会「わが師を語る」

9月17日[土]午後1時30分→午後3時
講師=根本圭助氏(昭和口マン館館長)
美術館2階研修室
定員=100名(当日受付・先着順)
*聴講無料
(高校生以上は要覧覧券チケット)
小松崎茂のまな弟子で、数々の画集を編集出版した根本氏から、師匠の素顔についてお話いただけます。

2. ミニSLに乗ろう

10月16日(日)午前10時→午後3時
美術館駐車場 参加無料(雨天中止)
小松崎茂は幼い頃から乗物が大好きで、SLの姿も描いていました。展示会にあわせて、美術館にミニSLがやってきます。ご乗車をお待ちしています。

3. 期間限定「談話喫茶X」

9月23日[金]・24日[土]・10月22日[土]・23日[日]
開催時間=午前11時→午後3時
茶室・佐喜知庵
美術館隣の茶室では、昭和のレトロな雰囲気を楽しんでいただく期間限定「談話喫茶X」を開催します。なお、開催中、呈茶(お抹茶)は休みとなります。

4. つくる・みるプログラム

I「ミニミニ☆シアター」
①10月1日[土] 午前10時→午後0時30分
②10月1日[土] 午後2時→午後4時30分
対象=小学1年生→小学4年生
参加費=200円(レクリエーション保険代+材料費)
定員=24名
ティッシュペーパーの紙箱をつかって、小さなげき場をつくります。シナリオや登場人物なども考えて、最後に自分で演じます。

II「ポップ・アップ・シアター」
10月2日[日] 午前10時→午後4時
対象=小学5年生→中学生
参加費=200円(レクリエーション保険代+材料費)
定員=24名
小松崎茂は、円谷監督が手がけた映画の仕事にも関わっていました。展示会を鑑賞した後、みんなで1つのシナリオをつくり、共同制作した舞台で最後に演じます。
講師：I、IIは山口ももこさん(美術家)
I、IIの申し込み方法：「往復はがき」か「FAX」にて、参加したいプログラム名(Iは時間帯も明記)、参加者名(ふりがな)、住所、TEL/FAX、年齢(学年、学校名、保護者名)をご記入のうえ美術館までお申し込みください。なお、返信用はがきにも住所と名前を記入してください。
※定員を超えた場合は抽選とし、結果をお知らせします。しめきりは、それぞれの開催日の10日前(必着)まで。



同時開催 (1階ロビー部/入場無料)
「瀬川康男の近作絵本原画展」



「ひなとてんく」(瀬川康男作、童心社刊、2004年)

入場料	当日	前売/団体
一般	800円	600円
高大生	600円	400円
中学生以下は入場無料		団体は20名以上

【前売券の販売先】
サークルK(愛知・岐阜・三重・長野県下の各店舗)、チケットぴあ、ファミリーマート他で9月16日[金]まで販売。
※身体障害者・精神障害者保健福祉・療育の各手帳所持者及び付き添いの方(1名)は入場無料。手帳をご持参ください。

【交通のご案内】
◎JR・名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口より徒歩10分
※「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約15分
◎車：名古屋方面より=国道23号線(知立バイパス)「一ツ木」出口から約5km 駐車場60台(無料)

Kariya City Art Museum
刈谷市美術館
〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
TEL.0566-23-1636 FAX.0566-26-0511
http://www.city.kariya.aichi.jp/museum/